

旧校舎に響いたジャズと太鼓の音色

舟志の森でやまねこ音楽祭



廃校の教室を利用して開かれたジャズライブ



Seven Starz



舟志の盆踊り

上対馬町舟志地区が中心となって取り組んでいるヤマネコのための森づくりを応援しようと「舟志の森でやまねこ音楽祭」が8月11日、同地区の旧舟志小学校校舎で開かれました。地元住民や対馬野生生物保護センターの職員らでつくる実行委員会主催したものです。

音楽祭は上対馬高校生のバンド「Seven Starz」によるライブで午後6時半にスタート。対馬愛鼓連による和太鼓演奏に続いて同地区に古くから伝わる「盆踊り」が野外ステージで披露されました。

その後、日が落ちて暗くなつてからは、教室跡へ場所を移し、地元メンバーに加え佐世保、神戸などから集まったジャズバンド「K.S.O.B」によるライブが開かれました。

照明が落とされ薄暗くなった教室にジャズの音色が響き渡り、大人たちはビールなどのアルコールを片手にムーディーなジャズのリズムに耳を傾け、子どもたちはちよっぴり大人の雰囲気を感じていました。

音楽祭には約150名の観客が集まり、静かな山あいの旧校舎に廃校前の賑わいが戻っていました。

シリーズ「人権教育総合推進地域事業」の取組 その3

人権教育担当者研修会が開催されました

7月26日、市内各小・中学校の人権教育担当者が集まり、豊玉地区公民館で研修会が開催されました。

この研修会は、小中学校での人権教育の充実を目指して昨年度から始まったものです。2回目の今年は子どもどうしの横のつながりをつくることに取り組んだ集団づくりの実践報告、昨年度各学校で行われた人権教育の実績に基づいた年間計画の作成など、終日にわたって熱心な研修が行われました。参加者の感想を紹介します。

参加者の感想

力の弱い子は怒りを出せず我慢することが日常となり、それでバランスをとっている。だからこそ、感情を出させること。出させるためには支えがいること。その支えにまず教師がなること。などの話が印象に残りました。実践報告を聞いて、日々の取り組みが大切であることを痛感しました。人権・同和教育は、学校教育の土台であると思います。

人権教育担当者として何ができるか悩みもありましたが、講話や実践報告を聞いてやる気が出てきました。学校生活全体を通して、人権教育をしていけるような工夫をしていきたいと思っています。

人権教育の年間計画を作りながら、人権教育は教育活動の根底にあるものだと、改めて考えなおすことができました。子どもたちに人権について学習させるためには、教師側の人権感覚を高めていかななくてはならないと思います。

現在受け持ちのクラスで気になる生徒がいます。このごろ表情が曇っており、とても気になっていますが、なかなか気持ちを話してくれません。この夏休み中も積極的な言葉かけを続けていこうと思いました。また、年間計画を作成してみて、多方面にわたる活動ができると改めて思いました。

